



# “日本のマナーを学んで私の人生が変わった”

余琴さん（中国）

日本語学校

学習院大学  
哲学科

就職

私は中国の福建省からきた余琴です。8年前に日本にきました。本日は、日本での8年間の経験を皆様とシェアしたいと思います。

最初の日本語学校での2年間が、私の日本生活の中で最も大変な時期でしたが、同時に最も重要な時期でもありました。日本語も全く喋れなくて、アルバイトの面接でいつも落とされましたので、お金の余裕は全くありませんでした。でも、自分にできることは全てやりました。例えば、進学する為の資格である日本語1級と日本留学試験の勉強に全力で取り組みました。

「試験はどんなものでも一度で合格する」というのが私の考えです。せっかくお金を払ったのに、試験に落ちてしまったらもったいないと思うので、過去の試験問題を数多く解いたり、次の試験で出題されそうな問題を予想したりして、勉強しました。そして、常に試験日から逆算して、試験の日までにどのような勉強をすれば合格するのかを考えるようにしていました。そのほかにも、毎日30分ぐらい日本のテレビを見たり、日本人と多くコミュニケーションをとることを習慣にしました。このような努力の結果、どの試験も一回で合格することができました。勉強の方法は様々ありますが、自分が一番長く続けられる方法を見つけてみてください。

日本語専門学校時代でもうひとつ力を入れたことは、日本の生活を体験することです。日本各地に旅行に行ったり、アルバイトをしたりしました。旅行では、私は京都や箱根などに行きました。京都では茶道と舞妓体験等をしました。箱根では美術館と博物館にたくさん行きました。私は星の王子様ミュージアムに行けたことが幸せだったと感じています。子供の頃からずっと「星の王子様」が好きで、このミュージアムの体験で初めて、日本が夢に近い場所だと感じました。旅行は楽しかったのですが、アルバイトは大変でした。最初は日本語が下手だったので、横浜西口のメガネ専門店で掃除の仕事をしました。仕事が朝6時ぐらいから始まるので、毎朝4時半ぐらいに起きなければいけませんでした。正直、寝不足で辛かったです。

その後、少し日本語ができるようになってからは、コンビニと居酒屋の仕事にチャレンジできました。やっと日本語で周りの人とたくさんコミュニケーションをとれる生活が始まりました。私の人生観もその中で少しづつ変わっていきました。

例えば、すごく小さなことですが、テープを使い終わったら、次に使う人が使いやすいように、テープの端を折り返してつまみを作るということを仕事中に教えてもらいました。最初は、なぜ日本人はこんなに優しく、周りのことまで考えるのだろうと疑問に思いました。なぜなら、日本に来る前の私は、ほとんど自分のことしか考えていませんでした。ですので、とてもショックを受けました。その後の経験から、日本人は周りに必要とされる時に喜びを感じるということが分かりました。その影響で、少しずつ私も自分のことだけではなく、他の人のことも思いやるようになりました。

また、日本の生活を体験していく中で、日本のマナーを身につけることができました。中国と日本では文化や習慣が違うので、お互いを理解した上で、尊重することがとても重要です。

例えば、外で大きな声で話さないこと、人にぶつかったらすぐ謝ること、エスカレーターの右側に立ち止まらないこと。このようなマナーを身につけることが、私のその後の人生を大きく左右しました。大学の入学試験の面接であれ、就職の採用試験の面接であれ、良いマナーで良い印象を与えることはとても重要です。

将来について、長い目で見ることは大事なことだと思います。当時は、「早く働いてくれ、大学なんてお金もかかる」と家族から反対されました。でも、いい大学に行くことは日本に留学する目的の1つもあるし、将来、良い会社に入り、良い給料、より良いチャンスを得る為には多くの知識が必要だと考え、大学に行くことを決めました。

大学を決めるときは、日本で上位15位以内の学校に絞りました。自分が勉強したいのは哲学だったので、最終的に学習院大学と早稲田大学に絞りました。学習院大学の方が選考が早かったので、実際の環境を確認する為に、学校に行きました。そのときに、学習院大学に一目惚れしてしまいました。緑に包まれ、春の詩に池があったからです。すぐに学習院大学が私にとって最適な学びの場だと思いました。

学校のアドミッションセンターで入学試験の申込書と過去の入試問題の資料をもらいました。私が受験した学習院大学は、過去の入試問題をネットではありませんでした。他にもそのような学校があると思うので、皆さんも必ず自分で足を運んで、大学の留学生担当の人に聞いてみてください。

受験勉強で特に力を入れたのは小論文と面接の対策でした。小論文については図書館に行って、小論文の書き方の本をたくさん借りました。例えば、話し言葉だと、「これはセロハンテープです」と言います。でも、論文だと「これはセロハンテープである」となります。そして、深みのある内容を書くために、多くの論文や新聞の記事を読みました。面接については、よく聞かれる質問や面接におけるマナーなどをインターネットでたくさん調べました。例えば、「筆記試験はどうでしたか」と聞かれたら、「私なりに、頑張りました」と答えます。よく聞かれる質問に関しては事前に答えを準備しました。

また、日本語専門学校の先生に模擬面接をしてもらいました。その結果、大学入学試験も一度で合格できました。

大学での最初の2年間は、一番リラックスできた2年間でした。ビザの心配もなく、就職も先のことなので、大きなストレスが無く自由に過ごせました。

3年生になると、就職に対する不安をもつようになりました。そして、仕事探しを始めたのは3年生の3月からです。自分の書いた履歴書の内容と日本語を学校の先生にチェックしてもらったり、模擬面接を行なってもらったりしました。正直、経験も全くなかったし、どの会社が良いのかも分かりませんでした。とりあえず興味のある会社にプレエンタリーをし、会社説明会に参加して試験を受けました。3ヶ月の努力のうち、6月にやっと内定を手に入れました。ストレスで4～5kg痩せてしまいました。とても辛かったです。試験に強いはずの自分が何回も落ち、自信が完全になくなった時もありました。でも、周りの友達と家族が私をずっと支えてくれたので、諦めずに続けることができました。外国人にとって就職は難しいので、多くの失敗が必要です。自分に合う会社が見つからなければ、適当に見つけて就職しても良いのです。入社したら、また考え直しても良いのです。

最後に皆さんに伝えたいことは、どんなに困ったことがあっても、自分の選んだ道を信じてベストを尽くせば、後悔はしないということです。そして、自分を責めないことが重要です。また、私達は海外にいるとき、自分の国の代表、自分の国の顔になっています。そして、日本と自分の国との間の架け橋になっているのですから、少し自分の行動について気にしたほうが良いと思います。優秀な人材になれば、自分の国へ貢献することができます。もちろん優秀になれなくても、自分が満足のできる生活を送れることもひとつの成功です。